

委員会名	2023 年度 第 5 回 生産技術委員会
開催日時	2023 年 12 月 1 日 13:30-15:00
開催場所	京都大学(Google Meet ハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	(現地)吉岡委員長、山崎副委員長、村田、矢島、桐山、知識、多田、荒木、谷口、上谷 (オンライン)久々宇、阿部、飯野、上野、中田、宮田、舟橋、安達、佐藤、中島
議事	1. 事務報告 ● 名簿更新 ➤ JX 石油開発 (株) 荒木委員、谷口委員 ご所属先更新 2. 幹事会報告 知識委員より第 8 回幹事会の報告がなされた。 議題 1. 第 88 期第 7 回幹事会議事録について 確認、了承された。 議題 2. 会員の異動 (令和 5 年 10 月 1 日～10 月 31 日) 確認、了承された。 議題 3. 令和 5 年度 10 月次一般会計収支報告 ・消耗品費について、講演会・特別見学会で必要なものを補填・補充した関係で増加した (特別見学会を久々に開催した影響もある)。来年度の予算額を見直す必要がある。 ・今期の収入について、個人会費を集める余地がある。声かけが難しい方もいる可能性がある。事務局は滞納者リストを作成するので、幹事会・理事会で確認する。合わせて事務局から督促状を再度出すことも検討。 ・:秋季講演会の予算は午後からの講演 (講師料が少ない) を計上しているので 18 万円。今回の実際の収支から鑑みるに赤字にはならない見込み。 議題 4. 令和 5 年度秋季講演会・特別見学会 (地質編) (報告) 参加者は昨年度より 100 名程度増加。収支も赤字にならず良かった。 ・昨年度は講演資料を配布したが、今年度は開示しない方針としていた。講演資料の開示については委員等に問い合わせがあったが、対応する委員によってばらつきがあった。来年度は対応を統一したい。 - ただし、講演資料について、個々人で付き合いのある方は、そのルートで入手することは阻害しない方針。 ・当日、注意喚起していたにもかかわらず、録画・撮影していた参加者が 2 名いた。今後も注意が必要。講演会冒頭や午後初めに注意喚起する。 〈特別見学会 (地質編) について〉 ・令和元年以来、4 年ぶりの開催 ・40 人程度の参加を想定していたが、実際の参加は 17 名と少なかった。 ・特別見学会 (地質編) は毎年開催していたが、令和元年以来中断した関係で、各社の参加者 (新入社員等) 向けの予算が確保されていなかった可能性もあるのでは。予算確保の声掛けも実施する。 ・学生には人気のあるコースだが、今回、平日開催のため学生参加がゼロだったと思われる。 議題 5. 将来像検討会議について (継続) リコチャレ参画: ・エネチャレ (経産省主催、石油学会委託) について、JX・INPEX・

JAPEX に講師依頼が人事部を通してあり、動き出している。

石油版資源・素材塾：

- ・会長を中心に教授陣に方向性を相談中。
- ・工学部系の教授のみならず、地質・物探系の教授にも参加していただきたくリストアップ中。

日本地下水学会とのワークショップ：

- ・3つの小ワーキンググループを立上げ（シミュレーション・地質モニタリング・ジオメカニクス）。テーマを議論中。

議題 6. 24 年度総会・90 周年記念式典の開催の件

- ・東大で実施すべく会場確保に動いている。
- ・90 周年事業は本腰を入れて動かないといけない時期と認識。委員会委員長は小寺会長として動き出している。
- ・12 月の理事会に向けて素案作りを開始（会長・副会長）。

3. 理事会報告

11 月は理事会開催がなく、省略。

[追加情報] JpGU2024 に、下記の 2 セッションが JAPT 共催として申請された(2023/11/17)。

- ・海底のメタンを取り巻く地圏・水圏・生命圏の相互作用と進化
- ・地球温暖化防止と地学（CO₂ 地中貯留・有効活用・地球工学）

講演希望の方がいらっしゃったら、話題提供願いたい。
次の理事会は 12/13 開催予定。

【質疑応答・コメント】

Q(山崎副委員長)：JpGU に石油技術協会としてブースは出すのか。

A(吉岡委員長)：ブースを出す予定。関連企業の周りに配置することで業界をアピールしたい。

Q(山崎副委員長)：サポートは必要か。

A(吉岡委員長)：具体的なマンパワーのサポートについては、日程が近くなった段階での相談になると思われる。

4. 春季講演会のシンポジウム対応について

- ・2023 年のシンポジウム講演原稿について

桐山委員より、2023 年のシンポジウム講演原稿について査読完了および発刊完了の旨、報告された。

今年度の発刊状況として全 6 稿のうち、4 稿はスケジュールに問題なく編集委員会に提示したが、2 稿は編集委員会への提出が締め切りから 1 カ月程度遅延した。発刊にあたって、編集委員会と印刷業者からの確認後の著者とのやり取り（画質の粗い画像についてはもらい直すなど）は運営幹事が担当している状況であり、来年度は運営幹事の交代が予定されているので、申し送りの際には注意事項などを漏れなく引き継ぐことが出来るようにしたい。

- ・2024 年度のシンポジウム講演の準備状況について

山崎副委員長より現在の準備状況について報告を受けた。

- ・各社より講演アイデア案を受領した段階
- ・ただし、内容をより深掘りしていくと機密情報につながってしまうことが多く、発表することができるかどうかは懸念材料の一つ
- ・先進的 CCS や海外の CCS プロジェクトなどについても上記のように、機密情報につながってしまい、講演内容が限定的となっている。
- ・本格的に動き出す時期。

【質疑応答】

Q(矢島委員)：次回の委員会までに具体的にどのようなことを進めていくのか？

A(山崎副委員長)：昨年度と同様の進捗状況にて、シンポジウムの話題と人の候補が定まって、打診している状態を想定している。

C(荒木委員)：昨年度も1月にはある程度は決まっていた。

C(吉岡委員長)：VENTI JAPANさん以外はある程度固まっていた。

C(荒木委員)：昨年度はテーマは後から決めた。議題がある程度集まった後にそれらに共通するテーマを後から話し合った。

C(山崎副委員長)：先進的CCSやエネルギーランジションなどを大枠のテーマをもとに、現在、名前が挙がっている会社（生産技術委員会に出ている会社、slbなど）に打診する。

C(知識委員)：昨年の秋田での実施内容では現地での石油開発プロジェクトも取り上げたが、今回もCCS以外のプロジェクトの実施状況についてもあっても良いのではないかな。

C(吉岡委員長)：大学の先生にお願いするのも一案。昨年度は阿部先生からご紹介いただいた小田先生にご登壇いただいた。

5. 次年度の委員会開催日・場所について
 第6回生産技術委員会の日程を変更予定。
 2024年1月11日(木)→1月19日(金)

	2023		2022
第1回	5月 11日 (木)	JOGMEC (ハイブリッド)	JOGMEC (オンライン)
第2回	7月 6日 (木)	INPEX (ハイブリッド)	INPEX (ハイブリッド)
第3回	9月 14日 (木)	JX (ハイブリッド)	JX (オンライン)
第4回	11月 2日 (木)	九州大学 (ハイブリッド)	秋田大 (ハイブリッド)
第5回	12月 1日 (金)	京都大学 (ハイブリッド)	東北大 (ハイブリッド)
第6回	1月 19日 (木)	出光	CIECO (ハイブリッド)
第7回	3月 7日 (木)	JAPEX	JAPEX 技研 (ハイブリッド)

6. 話題提供
 京都大学学生による研究紹介
- ・ Mariam Wanli, Enhancing Oil Recovery Efficiency: Investigating the Impact of Rice Husk-derived Nano-silica in Low Salinity Water Flooding
 - ・ Aabes Bahmaee, Numerical modeling of CO2-in-water emulsion injection into a water-saturated core.

以上